

---

**i o v e i o v e**

友

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

i o v e i o v e

### 【Nコード】

N 1 3 3 2 B

### 【作者名】

友

### 【あらすじ】

人気グループ『四神』の和輝が大好きな幼なじみ、夏木。彼女の想いは伝わるが……。

## 第1話 幼なじみ。(前書き)

連載第2弾です！ 前は7話で終わってしまったので長くしよう  
と思ってます！ 苦情は受け付けませんよ！

## 第1話 幼なじみ。

ー ピンポンー…ー 「あら！夏木ちゃん！ーいつも、

ごめんなさいねー！」

「いいえ！ー！」

「和輝ー！ー夏木ちゃん来たわよー！ー！」

『ん……。ーガチャー！ー！ー 「和輝！ー！仕事、遅れる

よ！？」

『あと、10分……。』 「もう、10時だよ！？スタジオ入り

30分なんだけどー！ー！」

ーガバツー！ー 『マジツ！？ヤベエー！ー！』 「

早くー！ー！」

『できた！ー！』 (はやっ！ー) 『母さ

ん！今日、あいつらたちと夜ご飯食べてくるからー！』 「はい

はいっ！ー！」

『行ってきまーす！ー！』

「スタジオ」

「ハア……ハア……。間に合った……」

「何でいつも起きれないわけ!?!」

「知らねえよ……」  
「10分遅刻……」  
「たくちゃん  
!?!」

「おはよ……。夏木。」  
「おはよ!?!」

「つて!俺には!?!」  
「無視無視!?!」  
「旬!」

「かわいそうだね!夏木は。」  
「やっぱり?」

「あれ?!?由は!?!」  
「ここにいますよ!」  
「ゆうちゃん

!お・は・よ!?!」  
「お・は・よ!」  
私の名前は柚子川

夏木! ここにいる男4人は『四神』という人気のグループ!  
ボーカー 佐山和輝  
ギター 梨夜巧  
ベース 中城旬  
ドラム 黒田由

私と和輝は幼なじみなのです。

スタッフ『四神

さん!お願いしまあす!?!」  
「はい。和輝、旬、由!行く

ぞ。」  
「じゃあ、夏木待ってるよ!」  
「私はマネージャーだ

から待ってます!?!」

ちなみに! 私は『四神』のマネーシ

ャーやっています。

ーボタンッ……ー

「いつ、帰ってくるかなあー？」

雑誌を見てると……

『問20！好きな女の子の夕

イプは？』と書いてあった……。

『答：美人な人がタイプです！』

「あきらかに私じゃない……。」

好きなものになあ…… 和輝の事ー！。

第1話 幼なじみ。(後書き)

どうでしたかー？読みやすかったかなあー？

## 第2話 嬉しい。

「撮影が終わり……」 『ただいまあー!』 「お帰り!」

巧 『疲れた……。』 旬 『こいつく3回目で終わったのに!俺、10回やったんだよ!』 「やりすぎだよ!旬は……!」

由 『俺も3回で終わったし〜!』 「さすが、ゆうちゃん!」

『ちなみに俺は……』

「さあ!みんな!次も仕事だよ?」

『まず、俺の話を!』 巧 『早くしろ……。』

「車を運転中!」

(夏木は20歳です)

旬 『夏木!』

次、どこ行くの?」

「次は歌番組だよー!」

巧 『出演者は……?』

「うーんと……内山あかりで

しょ……?あとは……」

『俺……あいつ無理!』

由 『確かに!ぶりっ子だもんなー!』

「そうなんだあ……。」

巧

『俺は興味なし……。』

旬 『出た!巧の

「女に興味なし!」

発言!』 巧 『(無視……。)』

到着すると……

「ねえ……あれ、どうする……?」

『あ……。』 目の前には女の子が20人ぐらいがいた……。



由「何か今日はいつぱいいる！」 俺の

出番だな！」 「私が行く！」

旬「夏木、頑張れー！！」 「あいつ、大丈夫か…？」

『四神』はデビューしてまだ、5ヶ月だもけどファンはいつぱいいる。デビュー前から注目されていたからだ。

「みなさん！」

女

「何!？」

「ここにいると出演者の皆さんに迷惑かかるのでどこかへ行ってください！」

「あんだ、誰!？」

『俺らのマネージャーだよ?』

「和輝……！」

「和輝だよ！？かつこいいー！」

「グイツー！」 「わあっ……！」

和輝は夏木の腕を掴んでいた……。

私は正直いって嬉しかった……。 この気持ち伝えよう……。

第2話 嬉しい。(後書き)

次回は夏木が和輝に想いを伝えます!!

でも……。

### 第3話 事故…。

「スタジオに入り…」 『よし』

「っ！もう、大丈夫だな…！」 『みんなは！？』

『後から来るよ。』 「あつ…。」

手を見ると…まだ、和輝の手は夏木の手を握ったままだった…

…。

「和輝っ…！！」

『どうした…？』 「私さあ…和輝の事…好き…。」

「和輝サイド」 『マジ…？』 何か嬉しい…。

『俺も…。』 「！？」

「ーギユツ…」 『前から好きだったよ…。夏木…。』

「離れないでよ…？」

『約束する。』

俺の唇と夏木の唇はいつのまにか…重なっていた…。

でも…夏木…ごめんな…？ 俺があんな酷い事言っ…。だ

からあいつの所へ行っただよな…。 本当にごめん…。

『おめでとう!!』  
その後、俺と夏木の事をメンバーに話した…。今は『お付き合いおめでとう!!パーティー?』をしている…。  
旬『いやあーでも、びっくりしたよな!』  
由『仕事ではイヤつくなよ!』  
『さあ?分からないよ。』  
「ちよつ…/ / /」  
『覚悟してね?夏木。』

「ばかあ…/ / /」  
巧『…もう、11時か…。明日も早いから、今日はここまでな…。』  
「うん。」

悪夢はこの後起きた…。俺はみんなと別れて、1人で家に帰ろうとした…。  
「拓哉!!危ない!!」

『! ! ! ! !』  
「ドントッ! ! ! ! !」  
「きゃあ! ! !大丈夫ですか! ? 誰か救急車を! ! !」

俺は…男の子を助けようとして、車にはなられた…。

嫌な予感がした……。 「寝よ……。」

「もしもし……？」

由「（夏木！？ 和輝が……和輝が……！！）」

第3話 事故…。(後書き)

2人は恋人どおしになりましたが…和輝が事故にあいましたね…！  
感想待ってます！

第4話 記憶。(前書き)

読みづらいかもしれません！<—>



第4話 記憶。

「みんなっ…!!！」

由「夏木!!」 「和輝は…!!？」

巧「手術中…。」 「死なないよね…？」

旬「あいつは絶対、死なない…!!！」

12時間後！

巧「先生…。」

「先生!!和輝は…」

…!!！」

先「命には別状ありません…。ただ…。」

「ただ!？」

先「頭を強く打ったため、記憶が…。」

「記憶喪失ですか」

…?」

先「はい…。」

「そんなっ…!!！」

先「今…病室へいます。行ってください…。」

巧「とりあえず、行こう…。」

「うっ…。」

ーガラ…ー

病室へ行くと…今にも起きそうだった

…。 「和輝っ…。」

やっと『好き』って言ったのに…どうして…どうしてよ  
神様のいじわる…。 神様のいじわる…！

「ん…。」

目を覚ますと…朝になっていた…。 ーピクッ…ー

「和輝…!？」

『ん…。』 「和輝…!大丈夫…!？」

ーバツ…!ー 「和輝…!？」

私の目をじっと見ている…。 そしてー…。 『だ…

…れ…!？」

「何、言ってるの!?!」

あつ…先生が言ってたっけ…。 『記憶喪失』

『もし

かして…俺のファン…?』

ーガラツ!ー!ー 旬 『和輝!ー!お前、目覚めたのか!

?』 『ごめんなあー心配かけて;』 由 『はあ; ;

でも、よかったよ。』 『巧は?』 ちよつと待って…。

どうしてたくちゃんとかは覚えてるのに私だけ覚えてないの…?

由 『あつ!でも、記憶喪失じゃなくてよかったよ!な

っ?夏木!』 「っ……………」

旬 『夏木…?』 『なあ…この女…誰?』

由 『はあ!?!?何、言ってるの…?夏木はお前の…』

もう、知られたの!?俺の事…』 旬 『和輝…俺らの事は覚

えてるのに夏木の事は覚えてないの…?』 『ここまで来

たんだ…?』 「!?!?!」

『まだ、何も発表してないのに…。邪魔なんだよねえ

…。

『ちが…………』この女、追い出して…………。』

第4話 記憶。(後書き)

和輝が記憶喪失ですね…； 感想待ってます！

## 第5話 突然の告白。

「ごめんっ……………」

由「夏木…！…！」 巧「…夏木？」

「たくちゃん……………」

「こんな顔…見られたくないよっ……………」

「……………」

女「夏木…！」 巧「何があったんだよ……………」

女「…何なんだよ…！…！」

「巧サイドー ……もしかして… 夏木の事、覚えてないのか？」

「夏木って…あの女の名前…？」

「ふん……………」

「由…あつ…ああ。」

「ちさがしに行くわけ…？」

「覚えてないんだろ？」

「和輝サイドー ……巧が何を言ってるのか分からなかった…。」

「何だよ…！…！」

「ごめん…今日は1人にして……………」

「由…1人にしてやれ……………」

「来るよ。」

私は病室を出た後、病院の中庭のベンチに座っていた…。

ーピト…ー 「たく…ちゃん…」

巧「飲み…。」 「強制…(笑)？」

巧「うん…。強制。」 「ありがとう…。」

巧「大丈夫…？」 「大丈夫じゃないよ…。」

巧「夏木…。」 「やっと…恋人になったの…!!…こんな

つてある…!!?」 「巧…。」 「神様のいじわる

つ…うつ…。」 「ギユツ…ー 「たく…ちゃん…?」

巧「俺…女には興味ない。つて言ったけど…お前だけには興味があるんだ…。」 「え…?」

巧「会った時から好きだった…。」

第5話 突然の告白。(後書き)

読みづらかったですか？( < | > )  
もっともっと頑張りますの  
で感想お願いします！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1332b/>

---

i o v e i o v e

2011年1月6日14時48分発行